

平成24年度 第1回心理学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

日 時：平成24年6月8日（金）午後5時から午後8時まで

場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

出席者：木村委員長、金子委員、大島委員、中澤委員
(事務局)井端事務局長、森下主幹、松本職員

1. 資料説明

事務局から資料を基に、地域毎に学部を寄せ集める国立大の統廃合計画、学生の学修時間および学修の質の確保を目指した新規の一般補助、現政権の戦略会議の動向として留学生確保、成長戦略人材育成、地域社会人材の育成計画などが紹介された。今後、授業数の削減と学修時間の確保とともに、事前事後学習の明記や科目数の削減等が求められるとのことである。

また教育力の評価なしに改革はないのではないか。自己努力と外部評価がある程度必要である。米国のように授業記録や教育業績の記録なしには大学教員として継続的に雇用されないような環境も必要ではないか。個人的な研鑽だけでは無しに、大学に改革が投げかけられているので、教育力の発揮できる環境と制度確立に、ガバナンスの発揮できる制度が必要であるとの意見が出された。

2. 検討事項

1. 教育改善モデルを実施するために必要な教育力について

- ①心理学教員に期待される専門性
- ②教育改善モデル実現に求められる教育力

・大学において教育事務の増加が著しい。この中で教育力の向上を実現するためには教育技術力の向上が欠かせないとの意見が出された。

・教育力として、学生にイノベーションや世界と個人の関係などを気付かせる力が必要ではないかという意見が出された。

・学識の意味は何かという根源的な疑問も出され、今日、学識を強調する必要性は何かという事に関して、大学審議会答申にもあるように大学の発展が国の発展に重要との認識があるとの説明がされた。

・現代社会における大学教員の役割として社会貢献が求められているとの認識も示された。

・従来、大学教員に教育力は求められなかったのではないかと。求めている主体は誰なのか、企業であれば何を求めているのかという疑問が出された。

・学部教育は広く浅く教えている。社会に出て即戦力として役立つわけではない。学士力とは知識だけではなく、応用力の基礎となる力が必要なのではないかと意見が出された。

・社会が変わってきた結果、大学教員に教育力が求められるのではないかと。心理学に求められる学識とは、気づきを教えることも重要だが、気づきを教えるのは非常に難しい。

などと意見が出され、「心理学教員に期待される専門性」として以下のとおりまとめ、今回は「教育改善モデル実現に求められる教育力」について、検討することとした。

1. 人間の理解のために強い使命感と倫理観を持ち、社会に貢献できる科学者であること
2. 個人・社会・文化の多様性を通じて複眼的・総合的に探求できること。
3. 心に関わる現象を科学的に理解し、人間・社会の諸活動を予見できること。
4. 心理学の知見を踏まえ社会のイノベーションに貢献できること。
5. 他の学問領域と連携して社会の発展に関わること。
6. 人間同士の在り方に気付かせ、興味・関心を持たせることができる。
7. ICTなどの教育技術を駆使して、コミュニケーション重視型の教育ができる。

3. 次回の委員会は7月31日午後5時から午後7時まで 私立大学情報教育協会会議室で開催する。